



ContentAsia's

The BIG List

directory

KINGDOM OF THAILAND

タイ

2025年6月

アジア・メディアコンテンツおよびサービス総合名鑑

この度、ContentAsia社より、同社発行「The BIG List」の日本語版を発行する許諾をいただきました。ContentAsia社のご協力に感謝申し上げますとともに、本資料が皆様のお役に立てることを願っております。なお、日本語版は、原文（英語）を翻訳したうえで、若干の補足説明を加えております。

一般社団法人放送コンテンツ海外展開促進機構(BEAJ)

2026年3月

# タイ 概況

原文発行日: 2025年6月

## 掲載一覧

### 無料放送／地上波デジタル放送 (Free TV / DTT)

- Amarin TV HD (アマリンTV HD)
- Channel 3 / 33HD (チャンネル3)
- Channel 5 / TV5HD (チャンネル5)
- Channel 7 HD (チャンネル7 HD)
- Channel 8 (SD) (チャンネル8)
- Channel 9 / MCOT HD (チャンネル9 / MCOT)
- GMM25 (SD)
- Mono29 (SD) (モノ29)
- Nation TV (ネーションTV)
- NBT 2HD
- One 31 HD (ワン31 HD)
- PPTV HD36
- Thai PBS (タイPBS)
- Thairath TV (タイラットTV)
- Workpoint TV (ワークポイントTV)

### 有料放送 (Subscription TV)

- 3BB GIGATV
- Advanced Innovation (Thai AI)
- AIS PLAY / Playbox (AISプレイ / プレイボックス)
- Good TV
- PSI
- TrueVisions (トゥルー・ビジョンズ)

### ストリーミング: 国内サービス (Streaming: Local)

- 3Plus (サンプラス)
- AIS PLAY (AISプレイ)
- Bugaboo.TV (バガブーTV)
- MONOMAX (モノマックス)
- NBT World (NBTワールド)
- OneD (ワンD)

- Thai PBS Play (タイPBSプレイ)
- TrueID (トゥルーID)
- TrueVisions NOW (トゥルー・ビジョンズ・ナウ)

### ストリーミング: 海外・広域展開サービス (Streaming: International)

- Netflix (ネットフリックス)
- iQiyi (アイチーイー)
- Viu (ビュー)
- WeTV (ウィーティービー)

### 制作会社、ポストプロダクション、およびスタジオ施設 (Production, Post-Production & Studio Facilities)

- Benetone Films (ベネトーン・フィルムズ)
- Century UU Entertainment (Thailand) (センチュリーUUエンターテインメント、タイランド)
- Change2561 (チェンジ2561)
- Five Star Production (ファイブスター・プロダクション)
- G2D (ジー・ツー・ディー)
- GDH 559 (ジーディーエイチ559)
- Halo Productions (ハロ・プロダクションズ)
- Heliconia H Group (ヘリコニアHグループ)
- Hub Ho Hin Bangkok (ハブ・ホー・ヒン・バンコク)
- Kantana Group / Kantana Motion Pictures (カンタナ・グループ / カンタナ・モーション・ピクチャーズ)
- Living Films (リビング・フィルムズ)
- Mスタジオ (M Studio)
- The Monk Studios (ザ・モンク・スタジオ)
- Sahamongkol Film International (サハモンコン・フィルム・インターナショナル)
- Sonix Boom (ソニックス・ブーム)
- The Studio Park (ザ・スタジオ・パーク)

- True CJ Creations (トゥルーCJクリエイションズ)
- TV Burabha (TVブラバ)
- TV Thunder (TVサンダー)
- Workpoint Group (ワークポイント・グループ)

### 政府機関・監督機関 (Government Agencies/Regulators)

- タイ・メディアエージェンシー協会 (Media Agency Association of Thailand, MAAT)
- タイ文化省 (Ministry of Culture)
- 国家放送通信委員会 (National Broadcasting and Telecommunications Commission, NTBC)
- タイ映像事務局 (Thailand Film Office, TFO)

## 統計データ

総人口	6,595万人
総世帯数	2,912万世帯
携帯電話契約数	1億1,513万
携帯電話普及率	175.73%
固定電話契約数	390万
固定電話世帯普及率	13%
ブロードバンド契約数	1,058万

出典: タイ国家統計局 (2024年時点の人口・世帯数) 国家放送通信委員会 / NBTC (2024年時点の携帯電話、固定電話、ブロードバンド数)



タイの制作会社GDH 559による『マッド・ユニコーン (Mad Unicorn)』は、Netflixが2025年に制作を承認したタイ向けラインナップ9作品のうちの一編だ。ノッタポン・ブーンプラコーブ (Nottapon Boonprakob) が監督を務める本シリーズは、かつて自分を裏切った大物実業家に立ち向かうため、更生した地方の元チンピラが宅配業界に参入し、タイ初のユニコーン企業へと上り詰めていく姿を描いている。

ここ数年、タイのコンテンツに向けられていた熱狂がやや冷めたのだとすれば、現在のタイ国内の制作状況は、タイ中の注目を集めているプレミアリーグの動向によって完全に影に隠れてしまっている。より具体的に言えば、ジャスミン・インターナショナル (JAS) が昨年未だにトゥルー・ビジョンズ (TrueVisions) から鮮やかに奪い取ったプレミアリーグの放映権をどう運用するのか、そして、それを失ったトゥルー・ビジョンズがどう立ち振る舞うのか、という点である。JASは、タイ、カンボジア、ラオスにおける2025/26シーズンから2030/31シーズンまでのプレミアリーグ6シーズン分に対し、ライブ放送、再放送、ハイライトを含めて5億6,000万米ドル(192億バーツ)を支払った。株主は2025年1月にプレミアリーグおよびFAカップの権利取得を承認し、同時にモノ・ネクスト (Mono Next) のプラットフォームを通じた配信を承諾した。

多くの見方によれば、トゥルーはこの動きに不意を突かれた形となったが、結果としてこの契約は、同社の最大のライバルであるアドバンスト・インフォ・サービス (AIS) にプレミアリーグへの独占的なアクセス権を与えることになった。

権利取得が確定してから3ヶ月後の4月末、(おそらくトゥルー以外の誰にとっても予想通りだったが) JASはAIS PLAYとのプレミアリーグにおける提携を発表した。翌5月、JASは「Changing the Game, Leading

the Way (ゲームを変え、道を切り拓く)」と題した資料を発表し、好調な2025年第1四半期の決算を報告した。営業利益は2024年第1四半期比で152%増の2億7,700万バーツ(760万米ドル)に達し、親会社株主に帰属する純利益は同604%増の1億7,600万バーツ(480万米ドル)を記録した。プレミアリーグ関連の最初の売上高(収益)は、2025年第3四半期に計上される見通しである。

JAS、AIS、モノの3社は、このコラボレーションを「重要なマイルストーン」であり、「タイにおけるスポーツ・ストーリーミングの風景を一変

させる」ものだと説明している。JASは初年度に300万人の加入者と、推定100億バーツ(2億7,500万米ドル)の収益を目標に掲げている。スポーツ・パッケージは間もなく発表される予定であり、シーズンは8月16日に開幕する。

その一方で、業界の多くの人々は、広告収入が消えていくのを呆然と眺め、極限まで経費を切り詰め、可能な限り再放送で番組枠を埋め、注力する大型作品(テントポール)を絞り込み、映画やファンイベントが救世主になり得るのを見極めようとしている。彼らは部屋を出る時に電気を消し、さらなる削減の先に何かがあるのかと思いを巡らせ、Netflix、Prime Video、Viu、あるいはiQiyiが自分たちの番組を買ってくれることを祈るばかりだ。

所々にわずかな希望の火花はあるものの、企業の役員室は悲観に包まれている。

**モノ・ネクスト (Mono Next)** は、映画制作に向けたメジャー・ジョイン・フィルム (Major Join Film) との9,300万バーツ(260万米ドル)規模の合併事業をはじめ、複数の新規プロジェクトを推進しているが、5月末時点で他社を上回る堅調な推移を見せた。タイ証券取引所 (SET) のデータによると、年初来の株価下落率は約11%にとどまった。同社の時価総額は約1億8,950万米ドルにのぼる。

**GMM グラミー (GMM Grammy)** の株価は、3月末

時点で年初来40%下落した(5月末には39.76%の下落へと、わずかにマイナス幅を縮小させた)。第1四半期の利益は46.5%減の1億400万バーツとなったが、売上高(収益)は11%弱の増加を記録した。これは映画事業の売上が200%増加したことに牽引された結果だ。新作リリースのなかった前年第1四半期に対し、今期は『Flat Girls』と『The Red Envelope』(台湾の大ヒット映画『僕と幽霊が家族になった件』のタイ版リメイク)の2作品が、約7,000万バーツ(193万米ドル)を売り上げた。グラミーの事業の大部分を占める音楽事業の売上も大幅に増加し、2024年第1四半期比で20%以上の増収となって第1四半期を終えた。一方でホームショッピング事業は大幅な減収となり、衛星テレビ事業は惨敗に終わった。GMMグラミーの時価総額は約1億4,000万米ドルだ。

時価総額約1億3,000万米ドルでGMMグラミーに次ぐ**BECワールド(BEC World)**の株価は、現在、年初の水準と全く同じ位置にある。もっとも、現在の状況下では「0%の変化(変動なし)」こそが、新たな楽観の根拠となるのかもしれない。

同社は、(2024年第1四半期に一時的費用が発生していたことによる反動もあり)極めて好調な2025年第1四半期決算を報告した。その一方で、同四半期の広告売上(広告は依然としてグループ収入の大半を占める)の14%減少、およびドラマ制作と放送枠の削減を報告した。同社はまた、脆弱な経済環境についても言及した。

**ワークポイント・エンターテインメント(Workpoint Entertainment)**の株価は年初来で約30%下落しており、これほど深い不振はない。同社は打開策としてリスク低減戦略を導入した。具体的には、海外アーティストによるコンサート開催を減らすとともに、ドラマ制作から手を引き、より低コストなバラエティ番組へと軸足を移している。

テレビ局「ワークポイントTV」の運営に加え、活発なIPビジネスを展開するワークポイントは、2025年第1四半期に2,411万バーツの純損失を報告した。前年同期の901万バーツの利益から368%の減少(赤字転落)を記録した形だ。コンサート事業における激しい競争も影響を及ぼしたが、損失の主因は全体的な景気減速に帰せられている。

年初来の株価パフォーマンスを比較すると、ワークポ

イントと共に『Thailand's Got Talent』などのブランド力のある大型番組を制作する中堅独立系の**TVサンダー(TV Thunder)**は、それほど悪くない。5月末までの年初来の株価下落率は約16%にとどまった。

しかし、悲惨な年初の滑り出しからの回復については、依然として予断を許さない。6月第1週、TVサンダーは最高財務責任者(CFO)のパンジャヌッチ・キットグロンプライブーンが退任したと発表した。彼女の退任は、同社が2025年第1四半期の売上高を前年同期比55%減の2,570万バーツ(70万7,000米ドル)と報告し、純損失が2024年同期比で248%増(赤字幅が拡大)となる890万バーツを記録したと発表してから、約2週間後のことだった。

**ザ・ワン・エンタープライズ(The One Enterprise)**の株価は、2025年1月1日の水準と比較して3月末時点で43.18%下落し、5月末には52.27%の下落へとさらに続落した。過去5年間で見ると、下落率は77%を超えている。同社の時価総額は約1億5,100万米ドルで、メジャー・シネプレックス・グループ、モノ・ネクストに次ぐ業界第3位に位置する。

放送チャンネルやコンテンツ制作に加え、強力なタレントマネジメントとイベント事業を手がけている同社は、2025年第1四半期に2,242万バーツ(61万7,000米ドル)の純損失を報告した。著作権およびコンテンツ・ライセンス事業(海外への番組販売など)の売上高は、前年同期比5.9%減の1億8,467万バーツ(500万米ドル)となり、制作事業(スタジオ施設・サービス)の売上は50%以上減少して1,847万バーツ(50万8,000米ドル)へと落ち込んだ。その一方で同社は、オリジナル作品の制作や海外へのライセンス展開を、知名度と市場での存在感を拡大するための戦略的手段と位置づけている。こうした活動が巡り巡って、同社の「アイドル・マーケティング」事業を強力に牽引する仕組みだ。

そして、ここに特筆すべき明るい材料がある。同社が「アイドル(またはインフルエンサー)・マーケティング」と称する事業(ドラマ出演で人気を得たタレントをインフルエンサーとして活用し、企業の広告出演やイベント等で収益化するビジネス)の売上高は、今年48%以上の急伸を見せた。1月から3月までの3ヶ月間だけで、6億5,780万バーツ(1,800万米ドル)を稼ぎ出した。結局のところ、少なくともザ・ワン・エンタープライズにとっ

ては、スターの持つ影響力こそが収益の柱となっているのだ。

しかし、2022年10月からミス・ユニバース機構(MUO)を所有する**JKNグローバル・グループ(JKN Global Group)**の状況は、決して芳しいものではなかった。

上場企業である同社は多額の負債を抱えており、度重なる決算報告の提出遅延により、株式取引は停止されたままだ。組織全体が、かつての華やかなイメージとは対照的に、事業再建手続きという醜い泥沼の状況に深く入り込んでいる。JKNグローバルの事業再建計画は2025年4月4日に中央破産裁判所へ提出されたが、その後の進展については一切発表されていない。一方、タイ証券取引委員会(SEC)は同社に対して民事制裁などの処分を下しており、タイ証券取引所(SET)も上場廃止の恐れがあると警告した。

その数週間後、MUOはタイの親会社が抱えるトラブルから距離を置き、次のような声明を出した。「我々は完全に独立した自律的な組織として、独自の規約、ミッション、価値観のみに基づいて運営されている。JKNグローバル・グループを含むいかなる外部組織の影響も受けていない。取締役会と、外部株主やパートナーとの間には、組織的かつ法的な分離を明確に維持している」

現在はニューヨークとメキシコに拠点を置き、バンコクとシンガポールにも地域事務所を構えるミス・ユニバース世界大会は、これまでも常に華やかな話題に事欠かなかった。そして最新のシーズンでは、タイがその主役を演じている。一連の騒動が幕を閉じるには、まだ時間がかかりそうだ。次回のミス・ユニバースの祭典は、2025年11月21日にタイで開催される。何があるかと、ショーは続いていく。

## 無料放送

### 地上波デジタル放送(Free TV / DTT)

#### Amarin TV HD (アマリン TV HD)

34チャンネルで全国放送を展開しており、デジタルアンテナや対応するセットトップボックスを通じて、契約なしで視聴できる。運営を担うのは、アマリン・コーポレーションズ(Amarin Corporations PCL)傘下のアマリン・テレビジョン(Amarin Television Co., Ltd.)だ。ニュース、エンターテインメント、生活情報、バラ

エティなど、幅広いジャンルの番組を放送している。

#### Channel 3 / 33HD (チャンネル 3)

BECワールド傘下のBECマルチメディア(BEC Multimedia Co. Ltd.)が運営する地上波デジタル放送局だ。総合エンターテインメント・プラットフォームとして、自社制作や外部調達によるアジアのドラマシリーズ、バラエティ、スポーツ中継といった番組を提供している。同グループは音楽、テレビ番組、映画の制作に加え、コンテンツのグローバル配信も手がけており、バンコク郊外に自社スタジオを保有している。

#### Channel 5 / TV5HD (チャンネル 5)

1958年にタイ陸軍によって、軍と国民の相互理解を深めることを目的として設立された。日々の番組編成は、情報バラエティ、ニュース、ドキュメンタリー、エンターテインメント、教育番組などで構成されている。

#### Channel 7 HD (チャンネル 7 HD)

1967年11月にバンコク・ブロードキャスティング&TV(BBTV)が開局した。2014年には、アナログ放送とのサイマル放送(同時放送)として「Channel 7 HD」を開始している。SDおよびHDによる24時間の放送編成は、ニュース、ドラマ、クイズ・ゲーム番組、映画、スポーツなどで構成されている。

#### Channel 8 (SD) (チャンネル 8)

RSパブリック・カンパニー(RS Public Company)傘下のRSテレビジョンが、2014年5月に地上波デジタル放送局として開局した。海外ドラマや国内ドラマ、スポーツ、バラエティ、アニメ、ニュース、映画を提供しており、その90%以上が自社制作によるものだ。また、同社はChannel 2、Sabaidee TV、YOU Channel、Sun Channelという4つの衛星チャンネルの所有・運営も手がけている。

#### Channel 9 / MCOT HD (チャンネル 9 / MCOT)

首相府傘下の元国営企業、タイ・マス・コミュニケーション機構(MCOT)が所有・運営を担っている。24時間の総合エンターテインメント編成は、その70%以上が自社制作コンテンツで占められており、海外番組も一

部放送されている。MCOTはデジタル放送事業のほか、ラジオやオンラインニュースなども手がけている。

### GMM25 (SD)

メディア大手のGMMグラミー (GMM Grammy) が、2014年に開局した地上波デジタルチャンネルだ。オンラインでも視聴が可能となっている。主にティーンエイジャーや若年層をターゲットに据え、多彩なエンターテインメント番組を放送している。番組制作の大部分は、タイのソフトパワー発信において旗振り役を務めるグループ傘下のGMMTVが担っている。2024年には、同社制作のBL (ボーイズラブ) ドラマ『Last Twilight』が、ContentAsia アワードにて「アジアで制作された最優秀 LGBTQ+ 番組賞」を受賞した。

### Mono29 (SD) (モノ 29)

モノ・グループ (Mono Group) は、2013年に約6,800万米ドルでデジタル放送免許を取得し、2014年4月にMono29を開局した。24時間放送の同チャンネルは、国内外のドラマ、映画、アニメ、クイズ・ゲーム番組、バラエティ、ニュース、スポーツなど、多彩なコンテンツを組み合わせ提供している。

### Nation TV (ネーション TV)

1971年7月に英字日刊紙の発行元として設立されたネーション・マルチメディア・グループ (NMG) が運営している。現在は、地上波デジタル放送のNation TV (22チャンネル) をはじめ、多彩なメディア関連事業を展開している。

### NBT 2HD

NBT 2HD (タイ国営放送) は、首相府広報局 (PRD) が運営する24時間放送のニュース・情報チャンネルだ。1985年に国際協力機構 (JICA) から3億パーツ (約900万米ドル) の資金協力を受けて設立され、1988年に放送を開始した。ニュースや教育番組、文化番組、政府関連の情報などを組み合わせた番組編成となっている。

### One 31 HD (ワン 31 HD)

GMMグラミー傘下のザ・ワン・エンタープライズが運営する全国放送の地上波デジタル放送局だ。ドラマ、

ニュース、シチュエーション・コメディ、クイズ・ゲーム番組、バラエティといった多彩な番組ラインナップを提供している。

### PPTV HD36

2014年4月にバンコク・メディア・アンド・ブロードキャスティング (Bangkok Media and Broadcasting Co.) によって設立された地上波デジタル放送局だ。ニュースやバラエティ、スポーツ、ドラマといった番組を組み合わせ、幅広い視聴者層をターゲットに据えている。

### Thai PBS (タイ PBS)

2008年1月に開局した。ドキュメンタリー、自然番組、子供向け番組、生活情報番組、バラエティ、ニュース、スポーツといった、自社制作および海外調達によるコンテンツを組み合わせ提供している。2014年4月からは地上波デジタル放送を開始し、他の地上波デジタル放送局に対するネットワークおよびサービスプロバイダーとしての役割も担っている。

### Thairath TV (タイラット TV)

トリプルV・ブロードキャスト (Triple V Broadcast Co.) が運営する、総合エンターテインメントHDチャンネルだ。2014年4月に開局し、番組編成はニュースとバラエティが50対50の比率となっている。地上波デジタル放送の免許期間は15年間で、2029年まで有効だ。

### Workpoint TV (ワークポイント TV)

ワークポイントTV (23チャンネル) は、タイの大手制作会社ワークポイント・エンターテインメントが2014年4月に設立した総合エンターテインメント局だ。ドラマ、クイズ・ゲーム番組、バラエティといった番組を提供している。ワークポイントはタイにおける番組フォーマット・ビジネスのリーディングカンパニーであり、英国のゲーム番組を基にした『First and Last Thailand』や、韓国CJ ENMの『My Boyfriend Is Better』、『I Can See Your Voice』のタイ版などを手がけている。

## 有料放送 (Subscription TV)

### 3BB GIGATV

3BB GIGATVは、2023年11月より通信大手 AISの傘下に入った 3BB TV Co., Ltd. が所有・運営している。映画、ドラマ、ニュース、スポーツ、ドキュメンタリー、子供向け番組など、多彩なジャンルの70以上のチャンネルを提供している。月額料金は599バーツ(約18米ドル)からとなっており、インターネット接続に加え、地域限定ストリーミングサービスのMax (旧 HBO Go) や MonoMaxもあわせて視聴が可能だ。

### Advanced Innovation (Thai AI)

アドバンスド・イノベーション (Thai AI) は、衛星通信大手タイコム (Thaicom Public Company Ltd) の傘下企業だ。IPTVやブロードバンド網、衛星機器、それらを通じた映像配信などのコンテンツ事業を手がけている。その一環として、50以上のデジタル放送や衛星テレビチャンネルを視聴できるプラットフォーム「LOOX TV」などを展開している。

### AIS PLAY / Playbox (AISプレイ/プレイボックス)

(詳細はストリーミングの項を参照)

AISの光回線 AISファイバー (AIS Fibre) の全契約者に対し、セットトップボックスのAIS Playboxが無料で提供される。月額199バーツ(8米ドル)の追加オプション PLAY Premium を契約することで、プレミアムコンテンツの視聴や、複数デバイスでのストリーミング利用が可能になる。

### Good TV

ネクスト・ステップ (Next Step) 社が運営する、プリペイド式のDTH(衛星直接放送)プラットフォームだ。専用のセットトップボックスを通じて無料放送と有料放送を組み合わせ提供しており、バンコクや地方の主要都市をターゲットに据えている。また、AIS PLAY上でも5つのチャンネルを月額49バーツ(1.5米ドル)で視聴できる配信契約を結んでいる。

### PSI

1989年に無料衛星放送プロバイダーとして設立され、2014年には有料放送事業者として認定された。無

料放送および有料放送サービスの両方を提供しており、タイ国内および海外の約200チャンネルを視聴できる。基本サービスについては月額料金がかからず、初期費用のみで利用可能なシステムを提供している。一方、HD放送やプレミアムコンテンツのパッケージについては、追加の月額料金を支払うことで利用可能だ。

### TrueVisions (トゥルー・ビジョンズ)

巨大複合企業トゥルー・コーポレーション (True Corp) 傘下のトゥルー・ビジョンズは、200以上のチャンネルと多彩なパッケージを提供する従来型の有料放送プラットフォームを運営している。2025年3月末時点の加入者数は120万人で、2024年3月から約11%減少した。2025年の最大の課題は、6年間保持してきたイングランド・プレミアリーグの放映権を、2025年シーズンからジャスミン・インターナショナル (Jasmine International) に奪われたことへの対応だ。(詳細はストリーミングの項の「True NOW」を参照)

## ストリーミング: 国内サービス

### (Streaming: Local)

#### 3Plus (サンプラス)

3Plus (別名: Ch3Plus) は、BECマルチメディア (BEC Multimedia Co., Ltd.) が運営するチャンネル3 (Channel 3) の公式ストリーミング・プラットフォームだ。基本無料のフリーミアムモデルを採用しており、チャンネル3 (33HD) のライブ配信に加え、タイのドラマやバラエティ番組、ニュース、独自のデジタルコンテンツなどをオンデマンドで視聴できる。広告なしのプレミアムプランは、月額79バーツ(2.4米ドル)から提供されている。

#### AIS PLAY (AISプレイ)

従来型のリアルタイムの放送から定額制の動画配信、さらには独自制作のオリジナル作品まで、多彩な映像エンターテインメントを各種デバイスを通じて提供している。AISは、自社アプリとブロードバンド回線をセットにしたプランを月額599バーツ(約18米ドル)から展開している。2023年11月には3BB TV Co., Ltd. を買収し、3BB GIGATVの機能を自社プラットフォームに統合した。一部のプレミアムコンテンツやパッケージはAIS

契約者限定となっている。広告なしの料金プランは月額199バーツ (6米ドル) から。2025年における最大の注目点は、放映権を保有するジャスミン・インターナショナルと、プレミアリーグの配信においてどのような協力関係を築くかという点だ。

### Bugaboo.TV (バガブー TV)

バガブー TVは、チャンネル7 (BBTV) 系列のBBTVニューメディア (BBTV New Media Co., Ltd.) が運営するデジタル・エンターテインメント・プラットフォームだ。「ラコーン」と呼ばれるタイのテレビドラマをはじめ、バラエティやスポーツ、独自のオリジナル番組など、多彩なコンテンツをライブ配信およびオンデマンドで提供している。これらは無料、または広告なしの有料プランを通じて視聴が可能だ。また、サッカーやムエタイの試合といったスポーツイベントのライブ配信にも力を入れている。

### MONOMAX (モノマックス)

モノマックスは、モノ・ネクスト (Mono Next Public Company Limited) が運営する、タイ国内向けの定額制動画配信 (SVOD) サービスだ。2020年のサービス開始以来、タイ語吹き替えとオリジナル音声による映画、ドラマ、各種番組を2万時間以上にわたって提供している。2024年にはParamount+ (パラマウント・プラス) とライセンス契約を締結し、ShowtimeやCBS Studios、Paramount Picturesのコンテンツを自社プラットフォームに加えた。各種デバイスに対応しており、最大5つの画面で同時視聴が可能だ。月額料金は250バーツ (7.5米ドル) となっている。

### NBT World (NBTワールド)

首相府広報局 (PRD) 傘下のタイ国立ニュース局 (NNT) が運営する、24時間体制の英語放送サービスだ。世界中の視聴者に向けてオンラインで無料提供されている。2013年に開局し、タイの政策や発展状況、文化番組、最新ニュースなどを国際社会に発信することを目的としている。

### OneD (ワン D)

ワン Dは、ザ・ワン・エンタープライズ (The One

Enterprise) が「顧客がより手軽にコンテンツを視聴できる手段」として設立したストリーミング・プラットフォームだ。ザ・ワン・エンタープライズは、海外勢のストリーミングやSNSプラットフォームが市場を席巻し、国内事業者の脅威となっている現状を認識している。同社はワン Dを通じて、海外プラットフォームへの依存を減らし、配信や収益化の主導権を自社で確保することで、経営リスクの分散を図る狙いだ。

### Thai PBS Play (タイ PBS プレイ)

タイ PBS プレイは、タイの公共放送局であるタイ PBS (Thai PBS) の公式ストリーミング・プラットフォームだ。現在も精力的に運営されており、ニュースやドキュメンタリー、教育番組、文化番組など、多彩なコンテンツを無料で提供している。本サービスは、公式ウェブサイトやモバイルアプリを通じて利用可能だ。

### TrueID (トゥルー ID)

トゥルー IDは、トゥルー・コーポレーション (True Corporation Public Company Limited) が運営するプラットフォームだ。タイ国内および海外の映画やドラマ、スポーツの生中継、独自のオリジナル作品など、無料コンテンツとプレミアムコンテンツを組み合わせた形式で提供している。有料プランの「TrueID+」は、月額59バーツ (1.8米ドル) または年額599バーツ (18米ドル) で利用でき、2,000以上の作品を広告なしで視聴可能だ。

### TrueVisions NOW (トゥルー・ビジョンズ・ナウ)

トゥルー・ビジョンズ・ナウは、同じく上場企業であるトゥルー・コーポレーション (True Corp) 傘下のプレミアム・ストリーミング・サービスだ。スポーツ生中継、リアルタイム放送のテレビチャンネル、映画、ドラマを提供している。100以上のリアルタイム放送チャンネルとオンデマンド・コンテンツが視聴可能だ。月額料金プランは、119バーツ (3.60米ドル) から2,155バーツ (64米ドル) までとなっている。

## ストリーミング：海外・広域展開サービス (Streaming: International)

タイの視聴者は、世界中のあらゆる動画ストリーミン

グ・プラットフォームを利用可能だ。その一部はタイ語のインターフェースや現地向けコンテンツを備え、国内の通信サービスとセットで提供されている。これらには、**クランチロール (Crunchyroll)** や **YouTube プレミアム (YouTube Premium)**、AISを通じて視聴できる **HBO Max**、**ディズニー・プラス・ホットスター (Disney+ Hotstar)** に加え、2024年初頭にわずか数カ月でタイでの独自制作計画を撤回した **プライム・ビデオ (Prime Video)** など、多岐にわたるサービスが含まれる。

### Netflix (ネットフリックス)

Netflixは、2016年にタイでサービスを開始し、同国をオリジナル作品制作の優先リストに入れ続けている。『転校生ナノ (Girl from Nowhere)』や『ハンガー：飽くなき食への道 (Hunger)』といった人気作に続き、2024年後半の視聴レポート「What We Watched」でタイのシリーズ作品として唯一トップ100入りを果たした『マスター・オブ・ザ・ハウス (Master of the House)』、さらに『ダラー：殺人は花の香り (Dalah: Death and the Flowers)』や、2025年5月29日に公開された『マッド・ユニコーン (Mad Unicorn)』などの作品を次々と送り出している。『マッド・ユニコーン』は、同社が2025年のタイ向けラインナップとして制作した9作品(ドラマ3作、映画6作)の一つだ。また、利用デバイスに応じた通常のプランに加え、タイでは月額約3米ドルのモバイル専用プランも提供している。

### iQiyi (アイチーイー)

iQiyiは中国系のストーリーミング・プラットフォームで、約5年前のタイ進出以来、現地のオリジナル作品制作を手掛けてきた。中でもBL作品の『KinnPorsche: The Series』は、同社の代表作として最もよく知られている。タイ語のインターフェースや現地の決済手段を備え、無料プランとプレミアムプラン(有料)の2つのプランを提供している。月額料金は約4米ドル。

### Viu (ビュー)

Viuは2017年にタイでサービスを開始した。タイ版の『グッド・ドクター (Good Doctor)』や『Beauty Newbie』、『Double Savage』といったタイのドラマシリーズを含む、幅広いアジアのコンテンツを提供して

いる。タイ国内における広告なしのプレミアムプランは、月額119バーツ(3.60米ドル)から。

### WeTV (ウィーティービー)

WeTVは、中国大手のテンセント(Tencent)が運営し、ドラマや映画、バラエティ番組など、タイ国内および海外のコンテンツを組み合わせて提供している。タイでは無料プラン(広告付き)とVIPプラン(有料)の両方を展開しており、月額料金は129バーツ(4米ドル)から。

### 制作会社、

### ポストプロダクション、およびスタジオ施設 (Production, Post-Production & Studio Facilities)

タイは世界各地の制作チームからロケ地として絶大な人気を誇る。そのため、多言語で包括的なサービスを提供する現地のフィクサー(個人・企業のコーディネーター)が数多く存在し、そのほとんどがタイ・フィルム・オフィス(TFO)に登録されている。また、タイは東南アジアにおけるポストプロダクションの至宝(crown-jewel)とも言われており、カンタナ・ポストプロダクション(Kantana Post-Production)を筆頭に、高度な技術を持つスタジオが揃っている。

### Benetone Films (ベネトーン・フィルムズ)

バンコクを拠点とする国際的なフルサービス制作会社(企画から撮影、編集までをワンストップで請け負う総合制作会社)。これまでに100本以上の長編映画やテレビシリーズを制作している。Viuオリジナル作品『Wannabe』(2022年)や、2024年10月にプライム・ビデオで公開された映画『Love Stuck』などの制作実績がある。

### Century UU Entertainment (Thailand) (センチュリー UUエンターテインメント、タイランド)

北京に拠点を置くセンチュリー UUカルチャー・アンド・コミュニケーション(別名: Century YouYou)の子会社として、2021年に設立された。コンテンツの制作、買い付け、配給を行う。また、韓国のファンタジー・ロマンスドラマ『W-君と僕の世界-』のタイ版リメイク『Switch On』(タイ語題: ゲーム・ラック・サラ

ブ・ミティ、Game Rak Salub Miti)などの放送枠を地上波テレビ局から買い取り、放送を展開している。

### Change2561 (チェンジ 2561)

GMM グラミー (GMM Grammy) の制作子会社。タイのドラマ制作、アーティストのマネジメント、イベント運営を専門としている。これまでに300以上の番組を制作しており、代表作には有名な『Club Friday The Series』や、One 31チャンネルで放送されiQiyiでも配信されている『Pit Babe The Series 2』などがある。

### Five Star Production (ファイブスター・プロダクション)

1973年に設立されたファイブスター・プロダクションは、ウィシット・サーサナティアン監督の『怪盗ブラック・タイガー (Tears of the Black Tiger)』やベンエーグ・ラッタナルアーン監督の『地球で最後のふたり (Last Life in the Universe)』といった作品を含む、幅広い映画を制作している。

### G2D (ジー・ツー・ディー)

G2Dはバンコクに拠点を置くポストプロダクション会社だ。映画、テレビ、広告向けの視覚効果 (VFX)、カラーグレーディング (映像の色彩を調整して独特の質感や雰囲気を出す作業)、編集、およびデジタルフィニッシング (上映や配信に向けた最終的な仕上げ作業) を専門としている。

### GDH 559 (ジーディーエイチ 559)

GDH 559は、GMM タイ・ハブ (GMM Tai Hub、GTH) の後継として2016年に設立された。子会社のジョークワン・フィルムズ (Jor Kwang Films) と共同制作した2024年の大ヒット作『おばあちゃんと僕の約束 (How to Make Millions Before Grandma Dies)』を手がけたスタジオだ。また、代表作にはクライム・スリラー映画『バッド・ジーニアス 危険な天才たち (Bad Genius)』(2017年) などがある。

### Halo Productions (ハロ・プロダクションズ)

アナンダ・エヴァリンハム (Ananda Everingham) とナパッサリン・プロムピラ (Napassarin Prompila)

が率いる制作会社。主な作品には、Prime Video向けの『LOL: Last One Laughing Thailand』(2024年)や、プロムピラが監督を務める2025年のLGBTQ+シリーズ『Lost in the Woods』などがある。

### Heliconia H Group (ヘリコニア Hグループ)

ヘリコニア Hグループは2005年に設立された。オリジナルおよび海外の番組フォーマットの制作を専門としている。主な実績として、チャンネル7の『MasterChef Thailand (タイ版マスターシェフ)』や『Iron Chef Thailand (タイ版料理の鉄人)』といった大手ブランドの料理対決番組、チャンネル9のゲーム番組『Cash Cab Thailand (タイ版キャッシュキャブ)』シーズン4、Mono TVの『The Choice Thailand』シーズン3などを手がけている。

### Hub Ho Hin Bangkok (ハブ・ホー・ヒン・バンコク)

GMM タイ・ハブ (GMM Tai Hub、GTH) の創設パートナーの一社であるハブ・ホー・ヒン・バンコクは、国内外の企業に対し、キャスティングや機材提供を含む幅広い制作サービスを提供している。また、同社はGDH 559の株式も保有している。

### Kantana Group / Kantana Motion Pictures (カンタナ・グループ / カンタナ・モーション・ピクチャーズ)

1951年に設立されたカンタナ・グループ (公開株式会社、Kantana Group Plc) は、スタジオ施設やポストプロダクション施設で最もよく知られている。同社は、子会社のカンタナ・モーション・ピクチャーズ (Kantana Motion Pictures) が制作したNetflixの大ヒット作『マスター・オブ・ザ・ハウス (Master of the House)』を手がけた。同子会社は『Reverse 4 You』や『The Crown Princess』(2018年) も制作している。また、傘下には『ブルー・エレファント (原題: Khan Kluyay, Khan Kluyay2)』シリーズを手がけるカンタナ・アニメーション・スタジオ (Kantana Animation Studios) を擁する。施設にはカンタナ・ムービー・タウンがあるほか、2024年には新たにバーチャルプロダクション・スタジオを開設した。

### Living Films (リビング・フィルムズ)

1996年にクリス・ローウェンスタイン (Chris Lowenstein) によって設立され、チェンマイに拠点を置くリビング・フィルムズは、Netflixの『ナイト・エージェント』や『ザ・サーペント』のタイ国内シーンを含む、幅広い作品に対して現地での制作サポートおよびサービスを提供している。

### Mスタジオ (M Studio)

メジャー・シネプレックス・グループ (Major Cineplex Group) の子会社であるMスタジオ (M Studio) は、2014年に設立された。BECワールド (BEC World) と共同制作した大ヒット映画『ティーヨッド 死の囁き (Tee Yod)』シリーズをはじめ、幅広い映画の制作と配給を行っている。制作パートナーには、ほかに Mono、Workpoint、Trueといった企業が含まれる。

### The Monk Studios (ザ・モンク・スタジオ)

ザ・モンク・スタジオは、2006年にタイの映像作家・VFXアーティストのジャック・ソムサマン (Juck Somsaman) によって設立された。アニメーション、VFX、ゲーム開発サービスを提供している。VFXプロジェクトの実績には、Netflixの『ドクター・クライマックス (Dr Climax)』やPrime Videoの『カーニバル・ロウ (Carnival Row)』シーズン2などがある。また、自社オリジナルコンテンツの制作も行っており、Netflixのアニメシリーズ『シー・オブ・ラブ (Sea of Love)』(2022年)などを手がけている。

### Sahamongkol Film International (サハモンコン・フィルム・インターナショナル)

サハモンコン・フィルムは、多くのアクション映画のヒット作で知られている。代表作には、アクション・ファンタジー三部作の完結編『クンパン 3 (Khun Pan 3)』や、ムエタイ・アクションの金字塔『マッハ! (Ong-Bak)』シリーズなどがある。最近の作品には、ホラーコメディ映画『ライダー (Rider)』などがある。

### Sonix Boom (ソニックス・ブーム)

ソニックス・ブームは、BECワールド (BEC World) のチャンネル3向けドラマ制作で知られている。主な実

績には、『My Forever Sunshine』や、Netflixで配信されている『見習い薬草医トンエク (Thong Ek: The Herbal Master)』、その続編的作品である『ロイヤル・ドクター (Royal Doctor)』、および『The Man Series: Phupa』などがある。

### The Studio Park (ザ・スタジオ・パーク)

ザ・スタジオ・パークは、5つのサウンドステージや機材レンタル、共同制作サポートなど、長編映画からテレビCMまで幅広く対応する包括的なワンストップの制作サービスを提供している。また、LEDウォール技術を備えたサウンドステージ、フィグメント・スタジオ (Figment Studio) を開設し、バーチャルプロダクション (現実の背景とCGをリアルタイムで合成する撮影手法) 分野にも進出している。

### True CJ Creations (トゥルー CJクリエイションズ)

2018年にタイのトゥルー・コーポレーション (True Corporation) と韓国のCJ ENMが50対50の出資比率で設立した合併会社。同社は、『キム秘書はいったい、なぜ? (What's Wrong with Secretary Kim)』や『ハピネス (Happiness)』、『マウス (Mouse)』といった韓国の人気ドラマのタイ語リメイク制作に特化している。制作された作品は、トゥルー・グループ傘下のTrue ID、TrueVisions、True4Uといった各プラットフォームで配信・放送されている。また、ドキュメンタリーシリーズ『ヒドゥン・ジェム (Hidden Gem)』をはじめとするファクチュアル・エンターテインメント (事実に基づくエンターテインメント) の制作にも進出しており、これらはHBO MaxやNetflixタイなどで配信されている。

### TV Burabha (TVブラバ)

TVブラバは、ドキュメンタリー制作を原点とし、現在は映画、テレビドラマ、リアリティ番組へと事業を拡大している。TVブラバ・グループ (TVBG) の傘下で、同社は広告やイベント事業、さらに制作およびスタジオサービスも展開している。

### TV Thunder (TVサンダー)

アンスクリプテッド (バラエティやリアリティ番組など台本のない) 分野を牽引する制作会社のTVサンダー

(TVT) は、『Take Me Out』のタイ版を複数のバージョンで展開しているほか、タイ版の『The Price is Right』や『Show Me The Money』などを手がけている。ドラマ部門では、国内プラットフォーム向けに『Junk Mail』や『トリアージ (Triage)』などの作品を制作している。上場企業である同社は、自社スタジオ施設 TVT グリーンパーク・スタジオ (TVT Green Park Studio) も運営している。

### Workpoint Group (ワークポイント・グループ)

1989年に設立されたワークポイント・グループは、オリジナル作品や海外フォーマットのローカライズ制作に加え、自社開発のフォーマットやドラマをラオス、ベトナム、カンボジア、ミャンマーの放送局へ販売している。主な制作実績には、2016年から続くロングラン番組『I Can See Your Voice Thailand』や、2019年にリメイクされた韓国の人気バラエティ『無限挑戦 (Infinite Challenge) タイ版』、クイズ番組の『ライトニング・クイズ (Lightning Quiz)』(2014年～2019年) などがある。また、デジタル放送局・ワークポイントTV (Workpoint TV) を運営している。

## 政府機関・監督機関

### (Government Agencies/Regulators)

#### タイ・メディアエージェンシー協会 (Media Agency Association of Thailand, MAAT)

2007年に設立されたタイ・メディアエージェンシー協会 (MAAT) は、国内のメディア代理店 (媒体の選定・買い付けを行う専門会社) を代表する組織だ。業界標準の確立、公正な取引 (倫理的慣行) の促進、および専門性の向上を推進している。

#### タイ文化省 (Ministry of Culture)

タイ文化省は、文化振興局 (Department of Cultural Promotion) を通じて、メディアコンテンツの規制や検閲、およびタイの文化・価値観の振興を監督している。同省は、タイの伝統や遺産を反映したローカルコンテンツの制作と普及を奨励する上で、重要な役割を担っている。

#### 国家放送通信委員会 (National Broadcasting and Telecommunications Commission, NTBC)

国家放送通信委員会 (NBTC) は、タイ国内におけるすべての放送、電気通信、および周波数 (電波) の割り当てを規制している。テレビやラジオの放送局に対するライセンス (免許) の交付や、メディア基準 (放送内容の倫理規定や技術的品質の維持など) の維持を担っている。

#### タイ映像事務局 (Thailand Film Office, TFO)

観光スポーツ省観光局の傘下で運営されているタイ映像事務局 (TFO) は、世界各国の映画・テレビ制作チームに向けた、実績のある支援体制を整えている。同局の業務範囲には、撮影許可の管理をはじめ、タイ国内で5,000万バーツ (約140万米ドル) 以上の支出を伴う外国制作作品に対する最大30%のキャッシュリベート (現金還元) 制度や、その他のインセンティブ (優遇措置) の運用が含まれている。